

## 小笠原村地球温暖化対策実行計画の実施状況報告

### <区域施策編>

#### 1. 令和5年度の点検・評価結果の総括

2023年度（令和5年度）における小笠原村全体の「温室効果ガス総排出量」は、集計の結果、16,748t-CO<sub>2</sub>となり、基準年度である2013年度の排出量18,902t-CO<sub>2</sub>と比較して、2,154t-CO<sub>2</sub>の削減となりました。

これは、2022年度（令和4年度）から805t-CO<sub>2</sub>の削減であり、この削減量が毎年維持できれば、2030年度の目標は達成の見込みです。しかし、データ上で減少要因の特定が難しい事や、過去にも排出量の増減は変化があることから、今後も増加に転じないように注意が必要です。

今後は、これまでの取組を着実に推進するとともに、防災や産業・地域の活性化を踏まえたエネルギー対策の推進やごみの減量化などの取り組みを推進し、温室効果ガスの排出量の削減に努めてまいります。

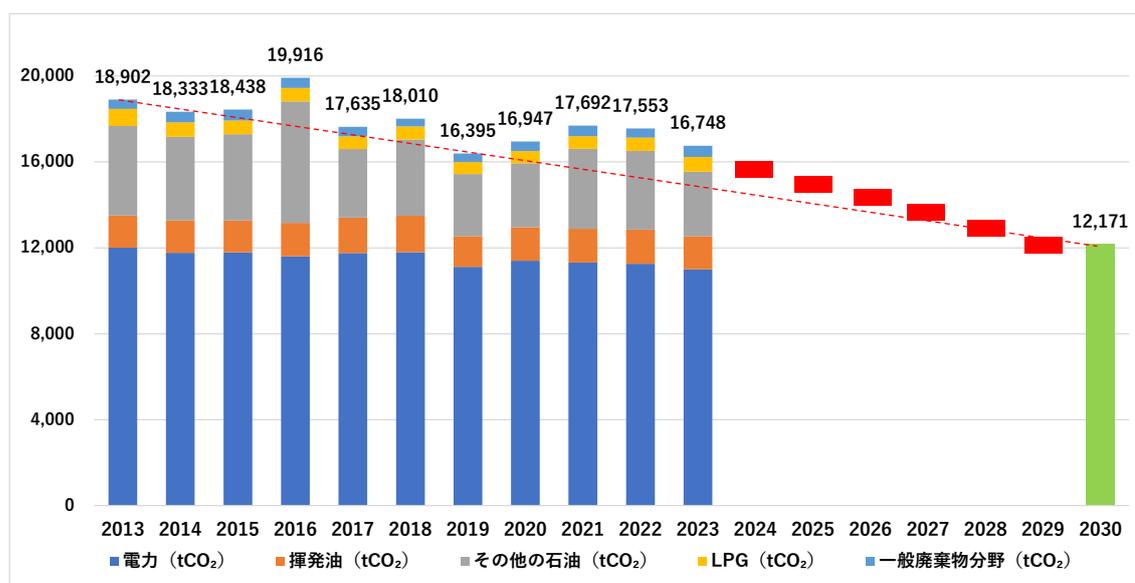
#### 2. 「温室効果ガス排出量」の削減目標と排出量の推移

##### (1) 実行計画における温室効果ガス削減目標

	基準年度（2013年度）	目標年度（2030年度）
温室効果ガス排出量	18,902[t-CO <sub>2</sub> ]	12,171[t-CO <sub>2</sub> ]
削減率	—	46%

##### (2) 温室効果ガス（二酸化炭素）の排出量の推移

図1 温室効果ガス排出量の推移



※棒グラフの赤色部分は2022～23年の削減量(約805t-CO<sub>2</sub>)を毎年削減した場合を示す

表 1 エネルギー別の二酸化炭素排出量の内訳（基準年度比）（単位：tCO2）

	2013 年度	2023 年度		
	【基準年度】	【実績値】	増減	削減率
電力	12,009.75	10,999.24	-1,010.50	-8.4%
揮発油	1,490.49	1,547.94	57.45	+3.9%
その他の石油	4,174.22	2,998.56	-1,175.66	-28.2%
LPG	794.71	683.75	-110.96	-14.0%
一般廃棄物分野	432.50	518.66	86.15	+19.9%
合計	18,901.66	16,748.15	-2,153.51	-11.4%

表 2 エネルギー別の二酸化炭素排出量の内訳（前年度比）（単位：tCO2）

	2022 年度	2023 年度		
	【前年度】	【実績値】	増減	削減率
電力	11,252.50	10,999.24	-253.25	-2.3%
揮発油	1,594.03	1,547.94	-46.09	-2.9%
その他の石油	3,672.72	2,998.56	-674.16	-18.4%
LPG	608.78	683.75	74.97	+12.3%
一般廃棄物分野	424.61	518.66	94.05	+22.1%
合計	17,552.63	16,748.15	804.48	-4.6%

（3）「温室効果ガス総排出量」の増減傾向

1）排出量の増加

- 一般廃棄物分野：基準年度比+19.9%（前年度比+22.1%）
- 揮発油：基準年度比+3.9%（前年度比-2.9%）

2）排出量の減少

- その他の石油：基準年度比-28.2%（前年度比-18.4%）
- LPG：基準年度比-14.0%（前年度比+12.3%）
- 電力：基準年度比-8.4%（前年度比 -2.3%）

#### (4) 措置・取組の状況

作戦	実施状況		令和6年12月時点
	令和5年度実績	令和6年度実施見込	未着手
作戦1 みんなで取り組む脱炭素	<ul style="list-style-type: none"> <li>区域施策編の策定</li> <li>ゼロカーボンワークショップ実施</li> <li>村民だよりによる情報発信</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ゼロカーボンワークショップ実施</li> <li>村民だよりによる情報発信</li> <li>小学校ごみとリサイクル授業</li> <li>ごみ分別ガイドブック作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>エコドライブ・乗合の推進</li> </ul>
作戦2 島ぐらし楽しく快適に脱炭素	<ul style="list-style-type: none"> <li>省エネ家電製品普及促進事業補助</li> <li>公共施設におけるLED照明の導入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>省エネ家電製品普及促進事業補助</li> <li>公共施設におけるLED照明の導入</li> <li>公用車にEV車導入（母島）</li> <li>ZEV協定に基づく村民のEV購入支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一般住宅の断熱化等推進</li> <li>船舶の脱炭素化推進</li> </ul>
作戦3 自然パワーで脱炭素	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報センターへ太陽光発電設備導入</li> <li>母島太陽光発電所建設事業の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報センターへ太陽光発電設備導入（4.56kW）</li> <li>母島太陽光発電所建設事業の推進</li> <li>北港バイオトイレ（太陽光パネルと共に新設）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>技術者確保・育成</li> <li>新技術研究</li> </ul>
作戦4 ごみも資源だ脱炭素	<ul style="list-style-type: none"> <li>製品プラスチック資源回収の試行</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>製品プラスチックステーション回収の実施</li> <li>資源リサイクル拠点回収の実施</li> <li>生ごみコンポストモニター実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>伐採木等有効活用の検討</li> </ul>
作戦5 脱炭素型エコツアーで満喫		<ul style="list-style-type: none"> <li>母島シェアサイクルの試行</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境配慮型経営の推進</li> <li>地産地消</li> </ul>
作戦6 守れBONINの森と海	<ul style="list-style-type: none"> <li>小笠原諸島世界自然遺産管理計画に基づく森林等の適正管理</li> <li>オガグワの森イベントなど地域と連携したイベントの実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小笠原諸島世界自然遺産管理計画に基づく森林等の適正管理</li> <li>オガグワの森イベントなど地域と連携したイベントの実施</li> </ul>	

### 3. 今後の課題

#### 【再生可能エネルギー推進】

- 再エネ導入やメンテナンスに向けた、電気事業全体の活性化・技術者や事業者の確保
- すでに推進しているEV車普及のための太陽光発電による充電設備の検討（父島）

#### 【再生可能エネルギー以外】

- 家庭や事業所の省エネ、ごみ削減の推進（ソフトや普及啓発事業）
- エコドライブや相乗りなどソフトの普及啓発や交通システムの検討

＜事務事業編＞

1. 令和5年度の点検・評価結果の総括

2023年度（令和5年度）における小笠原村事務・事業に係る「温室効果ガス総排出量」は、集計の結果2,456.3t-CO<sub>2</sub>となり、基準年度である2016年度の排出量2,590.0t-CO<sub>2</sub>と比較して、133.7t-CO<sub>2</sub>の削減となりました。これは、主な公共施設の空調機器や照明機器の省エネ化が進んだことが大きな要因と考えております。

一方、2030年1,295t-CO<sub>2</sub>の目標に対しては、いまだ乖離が多く、今後毎年約166t-CO<sub>2</sub>と大幅な削減を行わないことには目標の達成は困難な状況です

今後は、これまで取組を着実に推進するとともに、再生可能エネルギーの導入やごみの減量化などの取り組みをより一層推進し、温室効果ガスの排出量の削減に努めてまいります。

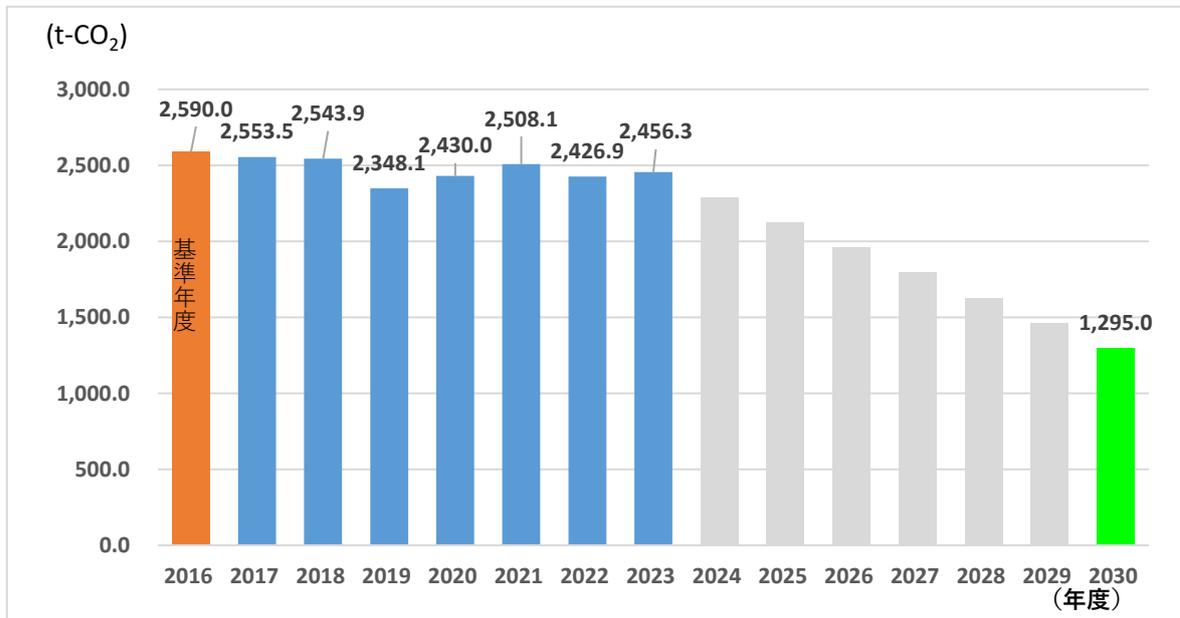
2. 「温室効果ガス排出量」の削減目標と排出量の推移

(1) 実行計画における温室効果ガス削減目標

	基準年度（2016年度）	目標年度（2030年度）
温室効果ガス排出量	2,590.0[t-CO <sub>2</sub> ]	1,295.0[t-CO <sub>2</sub> ]
削減率	—	50%

(2) 温室効果ガス（二酸化炭素）の排出量の推移

図2 温室効果ガス排出量の推移（事務事業）



※棒グラフ灰色部分は目標達成のため毎年166-CO<sub>2</sub>t削減が進んだ想定の数値

表3 主な施設の電気使用量の比較

(単位：kWh)

	2016年度	2023年度		
	【基準年度】	【実績値】	増減	削減率
役場庁舎	132,242	88,675	-43,567	-32.9%
情報センター	137,501	112,655	-24,846	-18.1%
地域福祉センター	163,222	133,733	-29,489	-18.1%
小笠原村診療所	397,254	338,377	-58,877	-14.8%
扇浦浄水場	148,686	149,433	+747	+0.5%
父島し尿処理施設	213,699	202,794	-10,905	-5.1%
父島クリーンセンター	337,961	289,290	-48,671	-14.4%
小笠原小中学校	125,987	127,030	+1,043	+0.8%
母島小中学校	114,759	119,130	+4,371	+3.8%

表4 購入電気使用量の推移

	温室効果ガス排出量
2016年度	1,955.3(t-CO <sub>2</sub> )
2017年度	1,943.8(t-CO <sub>2</sub> )
2018年度	2,014.3(t-CO <sub>2</sub> )
2019年度	1,825.3(t-CO <sub>2</sub> )
2020年度	1,828.3(t-CO <sub>2</sub> )
2021年度	1,852.7(t-CO <sub>2</sub> )
2022年度	1,843.6(t-CO <sub>2</sub> )
2023年度	1,786.0 t-CO <sub>2</sub> )

表5 一般廃棄物の焼却の推移

	温室効果ガス排出量	焼却量	プラスチック類割合
2016年度	412.5(t-CO <sub>2</sub> )	677(t)	33.1%
2017年度	386.1(t-CO <sub>2</sub> )	667(t)	32.8%
2018年度	319.6(t-CO <sub>2</sub> )	618(t)	26.0%
2019年度	342.6(t-CO <sub>2</sub> )	556(t)	34.8%
2020年度	394.5(t-CO <sub>2</sub> )	603(t)	40.4%
2021年度	455.1(t-CO <sub>2</sub> )	700(t)	32.1%
2022年度	398.6(t-CO <sub>2</sub> )	685(t)	33.6%
2023年度	485.8(t-CO <sub>2</sub> )	688(t)	36.5%

表6 燃料使用（ガソリン、灯油、軽油、A重油、ガス）の推移

	温室効果ガス排出量
2016年度	221.9(t-CO <sub>2</sub> )
2017年度	223.6(t-CO <sub>2</sub> )
2018年度	210.0(t-CO <sub>2</sub> )
2019年度	180.2(t-CO <sub>2</sub> )
2020年度	207.1(t-CO <sub>2</sub> )
2021年度	200.3(t-CO <sub>2</sub> )
2022年度	184.8(t-CO <sub>2</sub> )
2023年度	184.5(t-CO <sub>2</sub> )

(3) 具体的な取組内容

- 空調設備の省エネ化（小笠原村診療所、母島支所、福祉センター）
- LED照明の導入（クリーンセンター）
- 職員の省エネ意識の啓発

(4) 「温室効果ガス総排出量」の増減要因

1) 排出量増加の主な要因

- 一般廃棄物の焼却にかかる排出量の増加（ごみの組成分析の調査結果から固形分割合と廃プラスチック類の割合の増加）：基準年度比 +17.8%（前年度比 +21.9%）

2) 排出量減少の主な要因

- 購入電気使用量の減少（空調機器や照明機器の省エネ性能の向上）：基準年度比 -8.7%（前年度比 -3.1%）

3. 今後の課題

- 日々の事務事業における省エネの徹底及び資源のリサイクル推進
- 公共施設における省エネ・長寿命化の推進
- 公用車のEV化検討
- 公共施設への再生可能エネルギーの率先導入